

6-7			
主題	リハビリ参加の動機付けに着目し、積極的参加を促す取り組み		
副題	生活の質向上に向けて楽しく取り組む介護予防リハビリ		
キーワード1	介護予防	キーワード2	生活の質向上
		研究(実践)期間	12 ヶ月
法人名	社会福祉法人 浴風会		
事業所名	軽費老人ホーム A 型 浴風会松風園		
発表者(職種)	狩野れい子(介護職員)		
共同研究(実践)者	松任谷秀樹(介護職員)		
電 話	03-3334-5062	FAX	03-3334-5061
今回発表の事業所やサービスの紹介	昭和 37 年度に定員 45 名、昭和 39 年度 55 名の合わせて 100 名の軽費老人ホームとして創立した施設です。その後、昭和 30 年に設立した有料老人ホーム黒光園(25 名)を昭和 54 年吸収合併し 125 名、昭和 59 年 4 月全面的増改築により 200 名の施設として運営してきた老人福祉法による軽費老人ホーム(A 型)です。		

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

200 名の利用者のうち、75 名の要支援・要介護者が在籍しており、自立維持、介護度を高めないこと、引きこもり防止などが課題となっている。そのため園では「作品づくり」、「料理」、「脳トレーニング」をローテーションで企画した「介護予防リハビリ」を月 1 回行ってきた。

研究前の状況は、1 回 1 回独立した企画で実施されていたため、「介護予防リハビリ」への関心が薄く、参加者も固定した利用者になる傾向があった。

そうした状況では「介護予防リハビリ」の意図が充分生かし切れず、活性化を図る必要があると考えた。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

「介護予防リハビリ」の内容を充実することで、関心の薄かった利用者に関心を募らせ、積極的な参加を促し、課題解消の一助となるよう取り組むこととする。

職員間で課題を共有することにより「介護予防リハビリ」に対する認識を高めることとする。

「介護予防リハビリ」を個人個人の身体機能の維持・向上に加え、社会性・共同性の回復を目指すものとし、もって生活の質の向上につなげる。

《3. 具体的な取り組みの内容》

初めに「介護予防リハビリ」の実績・認識について全利用者アンケートを行うとともに、全職員（全職種）に「介護予防リハビリ」の課題についてアンケートを行い、その結果を基に企画内容を検討する事にした。

利用者及び職員アンケートからは、利用者の生活にそった企画、他利用者との交流に高いニーズが示されたため、企画内容を再考し検討した。また表題をわかりやすくするなど利用者への周知方法を工夫した。

参加者へのアンケート・聞き取りの実施、参加実績の検討、全利用者への再アンケートを行い、取り組み内容の成果を検証した。

《4. 取り組みの結果》

「作品づくり」では研究前は折紙や塗絵を行っていたが、利用者の生活にそった日用品・手鏡を使用した「女優ミラーをつくろう」を実施したところ 23 名の参加者（前年度平均 12 人）があった。造花でデコレーションした「女優ミラー」を施設の文化祭に出展したところ、華やかさで注目を集め、「介護予防リハビリ」への関心を高める効果があった。

「料理」では、他利用者との交流を促す「飲茶パーティ」を表題に企画したところ 18 名の参加があり、参加者からは「普段話しが出来ない人と話しができた」と意見があった。

男性の参加者が少ないことから試みた「男のための料理教室」は男性限定、ビール付きとしたところ、12 名の全員が初参加者だった。熱心に餃子作りされ、試食には職員も加わって歓談した。「また企画して欲しい」と意見がでた。

このような経緯により、職員にも企画の重要性を共有することができてきた。そこで、「脳トレーニング」では職員がオリジナル「高井戸クイズ」を作り、年齢、生活歴の異なる利用者が園の所在地の「高井戸」の歴史と文化を学ぶ機会になり、参加者が増加した。

《5. 考察、まとめ》

「介護予防リハビリ」の内容を利用者が関心の持てる表題企画とし、日常生活にそった企画に改善した結果、利用者の参加が、前年度の延べ 137 人から 174 人に増加した。新たな参加者が増えたのも特徴的だった。積極的に参加される方に介護度の維持・軽減がみられた。

参加者増になったが、1 年間の研究期間では園全体での要介護者の減少などが認められるまでにはいたっていない。今後も長期に渡り、継続的に実施し、企画内容も常に見直すことで、利用者の皆さんが積極的に参加し、介護予防と介護度軽減を図りたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究（実践）発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

「生活を活発にする介護予防リハビリテーション」藤原 茂 著（青海社）

《8. 提案と発信》

「介護予防リハビリ」の企画立案は介護職員が主に行ったが、実施過程に他職種（相談員、看護師、栄養士、ほか）が意識的に関わったことによって、問題を共有することができた。

全職種が関わる「介護予防リハビリ」の実施によって、利用者の日常生活に寄り添い、利用者自身の意欲を引き出し、ひいては生活の質を向上させる支援に繋がっていきたい。